



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 3 月 23 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

オオバンの巣から読み解く

新しい地質時代を切り開くプラスチック

ライデン大学の Auke-Florian Hiemstra 氏らの研究グループより

現在の考古学では、発掘された陶片、土器などから遺跡の年代を推定するという手法を当然のように行っている訳です。それが、近い将来、地層に埋もれたプラスチックの破片を手がかりに、時代を特定するようになるのではないかと予感させる事実が報告されています。その手掛かりとなるのが、鳥の巣。

2月25日に学術誌 The Scientific Naturalist に掲載された研究論文によると、オランダでは、オオバンをはじめとするさまざまな鳥たちが、食品や飲料のパッケージを巣作りに使い始めているというではありませんか。アムステルダム の 3 人の生物学者は、パッケージに印刷された賞味期限を手掛かりに、数十個のオオバンの巣の歴史を個別に分析しました。

湿地帯に生息するオオバンは、すぐに分解される植物性の素材を使うため、毎年新しい巣を作る習性があります。ですから本来、オオバンの巣には歴史なんて存在しないはずなのですが、近年はプラスチックなど耐久性のある人工素材を巣作りに利用するケースが出てきており、前年の巣を再利用するというこれまでとは違う行動をとるようになったことで、プラスチックが新たな歴史の扉を開くことになりました。それはどういうことかという、オオバンの巣には年代の特定が可能なプラスチックごみの層ができていたからです。それを読み解くことで、巣が何年使われ、再利用や再構築がいつ行なわれたのか、その歴史を研究できるようになりました。なぜならオオバンの巣に利用されていた人工素材のほとんどは食品や飲料のパッケージで、賞味期限や包装された日付が印刷されていたため、巣の層の年代をかなり正確に特定できるからです。

驚くことに、635 個もの人工物が入っていた巣もあったそうで、そのうち 32 個は食品関連のゴミで、何十年も前の日付が記されていたのだとか。その約半数はマクドナルドのものだったそうです。他には 1994 年にアメリカで開催された FIFA ワールドカップの宣伝が印刷された大手食品会社マース (Mars) の包装紙まであったとのこと。巣からサッカーの歴史

まで出てくるとはビックリですね。

もしかしたら、遠い未来、数千年の時を重ねた地層から、プラスチック素材の変遷まで確認できるようになるのでしょうか。



カモメとウミネコ

「カモメの卵」というお菓子がありますが、実際のところ、カモメ類の中で日本で繁殖するのは、北海道や東北の一部で繁殖するオオセグロカモメとウミネコだけなんだそうです。ですから、日本で見られるカモメの卵の実物は、オオセグロカモメのものということになります。ところでみなさんは、カモメとウミネコの違いがわかりますか。カモメとウミネコは生物学的にも見た目にも似ていますが、以下の点で異なります。①カモメは寒くなると飛来して、冬の渡り鳥であるのに対してウミネコは留鳥です。②くちばしと目に違いがあります。カモメは黄色いくちばしと淡色の目であるのに対して、ウミネコは黒帯と赤班のくちばしに鋭い目です。

戦中戦後は、卵を巡って人間とウミネコの壮絶な闘いがありましたが、国指定の天然記念物に指定されてからは、ウミネコの敵は「ネコ」。皮肉な話です。

